生存科学研究ニュース

Vol. 35, No.2　　2020.10 発行

発行　公益財団法人 生存科学研究所

〒104-0061 東京都中央区銀座 4-5-1

tel: 03-3563-3518　fax: 03-3567-3608　email: office@seizon.or.jp　http: //seizon.umin.jp

生存科学とみらいエンパワメントカフェ

安梅　勅江

COVID19 の影響が世界的に拡大するなか、皆さまのご健勝を心よりお祈り申し上げます。人類は幾多の危機を助け合うことで生き抜いてきました。知恵を出しあい、励ましあい、共に向きあうことで乗り越えてきました。

エンパワメントという言葉、ご存知ですか。「人びとに夢や希望を与え、勇気づけ、人が本来持っているすばらしい、生きる力を湧き出させること」がエンパワメントです。ちょうど清水が泉からこんこんと湧き出るように、一人ひとりに潜んでいる活力や可能性を湧き出させることです。和訳は湧活(ゆうかつ)です。

どんな困難にあっても、しなやかに成長する子どもたちの生きる力をエンパワメントしたい。そのために、子どもたちの未来をひらく最先端の科学を、わかりやすくすべての人に伝えて役立てたい。そんな願いを持つ仲間たちとともに、私たちは「みらいエンパワメントカフェ」をはじめました。生存科学研究所から助成もいただき、子ども、保護者、実践者、研究者がいっしょに集い、子どもたちの明るいみらいを築く輪を広げています。その成果は、生存科学叢書『子どもの未来をひらくエンパワメント科学』として 2019 年に刊行しています。

生存科学は個別の科学の垣根を越えてさまざまな視点から統合的に人を捉え、よりよい生存を考える学問です。人の持つ可能性を信じ、その力を引き出して人びとの幸せを実現するエンパワメント科学と重なる視点です。

「子どもたちの豊かな未来」とはいったい何でしょうか。そのひとつの形が A World of Possibilities、可能性に満ちた世界ではないでしょうか。世界は可能性に満ちていると子どもたちが感じられる環境づくり。それが子どもの豊かな未来につながります。

「子どもたちがもっと元気に生き生きと生活するためにはどんなことが必要でしょうか」と、子育てサポーター700 人に聞きました。大きく三つにまとめられました。一つ目は、夢、希望です。子どもたちの場合、夢、希望は、例えば、宇宙飛行士になりたい、スポーツ選手になりたい、何でもいいのです。とにかく、なりたいもの、やりたいことが何かあるという、夢や希望が持てることです。二つ目は、自己効力感です。自分は何かできると思えることです。三つ目は、それを意味づけるつながりです。つながりは大人でも友だちでもかまいません。今回は子どもについて聞いていますが、実は大人でも基本は同じかもしれません。

実践の中で蓄積された「実践知」と科学により根拠づけられた「科学知」の統合により、「誰もが主人公」と感じられる「新しい共生のかたち」をつくっていきたいと考えています。Viktor Emil Frankl の言葉のとおり、人間は、自分ひとりでは自分の意義を決して感じられません。ですから、ひとりでは幸せにはなれません。共に支えあう喜びを子どもの頃からしっかり育てていくことが大切です。

みらいエンパワメントカフェでは、「何はともあれ一緒に楽しもうよ」を合言葉にしています。子どもたちにハッピーになってもらうためには、保護者も、それを支えるサポーターも、みんなでハッピーに楽しまないと、決していいかかわりはできません。子どもたち、保護者たち、実践者たち、研究者たちが当事者として集い楽しみながら、みらいを拓くエンパワメントの実現を願っています。

高齢者と対話ロボットの
コミュニケーションに関する量的・質的調査研究

研究責任者　高木　美也子

2020 年 7 月 16 日(木) 17:00－18:30、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、対面での開催からオンライン(話者・議論参加者は Zoom, 視聴者は YouTube Live)での開催に切り替え、「高齢者と対話ロボットのコミュニケーションに関する量的・質的調査研究」の 2020 年度第 1 回研究会を開催した。

加藤泰久氏(東京通信大学情報マネジメント学部教授)による、「音のインタラクション―ロボットとの対話―」と題しての発表があった。

音による人と人とのコミュニケーション、人と機械とのコミュニケーションの観点から、モスキート音のデモを含む、聴覚の仕組みや特性、音声理解・発話は非常に複雑な神経系と運動系の連携によるものであるが、まだ解明されていないことも多い等の説明があった。また「モーツァルト効果」の是非はまだ論争が続いており、パーキンソン病に有効であるという論文も発表されていることが紹介された。

コンピュータによる音声認識、音声対話、音声合成の仕組みが紹介され、あくまで確率モデルであり、人間のような内容の理解はまだ先であることが説明された。また「美空ひばりプロジェクト」などの人工知能技術を故人に適用する際には倫理的な問題が存在することが示された。

また、日本は文字文化優位であるため、スマートスピーカーの普及が進んでいない点、スマートスピーカーに愛着を持たせる方法、ロボットに愛着や恋愛感情を感じるか等の先行研究が紹介された。日本では、アニメ等でヒト型ロボットに愛着を持っている世代が多いので、今後ヒト型ロボットが普及する可能性がある点、また、ロボットと共生する時代が来た時に、どのように人間がロボットを扱えばよいのか、という問題提起がなされた。

音声対話を含む人工知能やロボットの技術は今後の社会全体に大きなインパクトを与える可能性があるので、ロボット倫理や法律問題など解決すべき課題も多い。参加した東京通信大学の教員は Zoom の画面を介して、ロボットとの共生、ロボットへの遺産相続、頭脳のネット上へのアップロード、など多岐に渡る活発な議論が行われ、閉会した。

我々の使っているロボットと発表者の加藤泰久氏

医療・福祉・教育における
サービス利用者側のモラル意識と葛藤の実際

研究責任者　采女　智津江

2020 年 5 月 7 日(木) 13：00－14：30 に Zoom にて第 1 回自主研究会を開催した。

本年度の目標とスケジュールを共有した。

本年度は、昨年度実施した予備調査の結果に基づいて質問紙調査票を作成、量的調査(インターネット調査を予定)を実施し、得られた結果を論文として公表することを目標とする。

昨今の新型コロナウイルス感染拡大に伴う社会情勢は、一般市民の倫理的判断にも影響を与えていると推測されることから、この点を考慮した質問紙票を作成することで合意した。当初の予定通り、医療、福祉、教育の 3 つの場面における倫理的葛藤に加え、生活場面とでも呼ぶべき日常生活における倫理的判断、態度に関わる規範意識の基盤の一端の明確化を目指す。

昨年度の予備調査からは「諦観」がキーワードとして抽出されたことから、この点も考慮しつつ、班員間でメールのやりとりを重ねて質問紙調査票を確定し、来月には倫理審査申請ができるように書類を整えることになった。さらに、調査対象者を比較的感染拡大による人々への影響が強い特定警戒都道府県(13都道府県)から抽出することの妥当性と可能性についても討議し、調査会社とのやりとりの中でさらに検討することになった。

インターネット調査会社の選定も上記と並行して実施する。

2020 年 7 月 13 日(月) 9：30－10：30 に Zoom にて第 2 回自主研究会を開催した。

本年度実施予定のインターネット調査の質問項目についての最終検討を行った。新型コロナウイルス

感染拡大に伴う市民のモラル意識と生活の中で生じる倫理的葛藤の実際を知ることを目的に、回答者の背景となる属性、経験、知識、葛藤の対象、生活場面で生じる具体的事象に対する価値判断を上位概念とする各下位項目の質問文と回答方法について検討した。

使用する用語は可能な限り平易でわかりやすい表現を用い、基礎統計のみならず各要因の関連の解析を前提とした質問項目を設定、統計処理の方向性を見極めた上で、調査票を確定することで合意した。

さらに、調査実施時期として 9 月頃が想定されるため、今後の社会情勢の変化に柔軟に対応する必要があること、客観的な情報で対比可能な 2 集団程度を調査対象集団として設定したいが詳細は調査会社と相談しながら確定していくことを共有した。すでにインターネット調査会社との折衝を開始しており、一定の合意が得られ、調査の見通しが定まった段階で、生存科学研究所に倫理審査申請を行い、承諾が得られ次第、調査を開始する予定。

事 務 局 だ よ り

6 月に事務局長に就任しました瀧澤でございます。簡単に自己紹介をさせていただきます。

瀧澤という名前は長野県に多いのですが、祖父の代に上田から東京の大学に通う為に転居してきました。私は東京生まれの東京育ちですが、菩提寺は上田にありますので、今でも年に 2 回はお墓参りに行っております。

私は 1977 年に三井銀行(現三井住友銀行)に入行し、融資業務・大企業取引・証券業務等様々な業務を担当しました。勤務地で東京を離れたのは、横浜駅前支店・神戸本部・大阪支店ですが、関西勤務中に阪神淡路大震災を経験。ちょうど住んでいたところが、神戸市東灘区という死者が一番多くでた地域で、銀行の岡本社宅が半壊状態となり、近くの甲南大学の避難所に 4 日間泊り、家族を東京に返すために電車が動いている駅まで 4 時間かけて歩いたことが記憶にあります。

銀行では中野坂上支店長を最後に外部に出向し、始めは福沢諭吉先生が創設された日本で最初の社交機関である「財団法人交詢社」、次に銀行の人材子会社、そして最後に三井グループの公益法人である「公益財団法人三井文庫(三井記念美術館)」で勤務しました。

三井文庫は江戸時代から 350 年間の三井家および三井グループの約 10 万点の資料が保存されており、和紙に墨で書かれたものは 2～3 百年経っても綺麗に残っています。また三井家で所有していた美術品を日本橋にある「三井記念美術館」で展示公開しています。所蔵品の中に時価数十億円と言われる国宝の志野茶碗があり、それを手に持つ機会があったのですが、緊張で手が震えてしまいました。

また、2011 年 3 月 11 日には美術館で会議が開かれていましたが、その最中に東日本大震災が発生。電車が止まってしまい、その影響で展覧会を観ていた入館者の方々約 80 名が帰宅できなくなり、美術館に泊まっていただくことになったのですが、食料を確保するために、職員総出で隣の三越本店の地下の売り場に行き、サンドイッチ等の色々な食料品を 100 個単位で買い出ししたことも懐かしい思い出です。

さて、今回生存科学研究所で勤務する機会をいただき、感謝しております。入所する前に青木理事長から生存研の活動をご説明いただき、とてもすばらしい公益事業を推進しておられるとの印象を持ちました。残念なことは、私が勤務を始めた 4 月が新型コロナウイルス感染症拡大の時期と重なってしまったことです。緊急事態宣言が出されましたが、6 月中には内閣府に決算等を提出する義務があり、4 月 5 月は理事長と 2 人で事務所に出勤して作業をしましたが、誰も歩いていない銀座は異様な光景でした。

このようなコロナ禍の状況が現在も続いており、なかなか皆様にご挨拶する機会がございませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

2020 年 6 月より生存科学研究所事務局に勤務させていただいております矢澤芽く実と申します。

コロナ禍で季節感を味わうことができないまま時が過ぎ、生存科学研究所でお世話になってから、早4ヶ月が経ちました。従来、生存科学研究所にお越しいただいて行われていた会議は、Web 上での会議となり先生方と直接お会いする機会もほとんどなく、ご挨拶もできず

におりました。この度、「生存科学研究ニュース」の紙面でご挨拶の場をいただき、大変恐縮しております。

前職は、公益社団法人の学術団体に勤務しておりました。同じ公益法人でも勝手が違うと戸惑うこともあり、その都度、前任の方のご協力を得ながら日常業務をなんとかこなしている状況で、関係する皆さまには、大変ご迷惑をおかけしていることと存じます。

仕事の合間に青木理事長は、様々なお話をしてくださいます。海外へ勤務された時のこと、環境問題について、著名な方のエピソード、そして現在起きている社会的問題を予測していらした武見太郎先生の理念や生存科学研究所創設の経緯、生存科学研究所の役割や重要性もお話してくださいます。特に「高齢化社会においては、いかに健康で長生きするかが大切」ということをおっしゃいます。そのためにはどうしたらよいか。体内時計の調節と睡眠の関係や腸内細菌の役割など、健康を維持するポイントをお話くださいます。

コロナ禍で生活様式やリズムが変わり、今まで経験のない状況でストレスも加わり、皮膚の状態が悪くなり、体重の増加など、身体にも影響が表れてきました。日常の生活習慣が健康にとって重要だということを改めて感じております。このような状況において生活習慣を見直すチャンスと思い、最近は、良質な睡眠をとるために体内時計を乱さないように、寝る前にパソコンやスマートフォンを見ない、また、就寝の数時間前は飲食をしないように、また、食事の内容もなるべくバランスよく摂るように心がけるようになりました。健康長寿に向けて、青木理事長を見習いたいと思います。

コロナ禍で社会全体が大きく変わり、長期間、活動を制限せざるを得なく、先が通せない状況が続いております。研究活動においても例外ではなく、多大な影響がでている様子がうかがえます。少しでも前進し、研究成果として芽がでて、やがて実となりますように、微力ながら事務方の仕事を通して、研究のお役に立てるようにお手伝いさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

研 究 会 等 日 報

8 月 21 日(金)	地域在宅医療における倫理支援活動研究会
8 月 24 日(月)	健康価値創造研究会(第二期)研究会
8 月 24 日(月)	あるべき感染症法等への提言研究会
8 月 25 日(火)	アドバンスケアプランニングの議論からわが国の患者主体の医療を再考する研究会
8 月 29 日(土)	生存の理法の新たな展開に関する研究－世界の動向から－研究会
9 月　7 日(月)	あるべき感染症法等への提言研究会
9 月 10 日(木)	介護現場をIT技術で効率化するための調査・開発研究会
9 月 15 日(火)	地域の医療・介護職の倫理的ジレンマを固定しその対策を講じる研究会
9 月 18 日(金)	あるべき感染症法等への提言研究会
9 月 25 日(金)	森とレジリエンス－地域の再生－研究会
9 月 26 日(土)	ユマニチュード市民公開講座
10 月　1 日(木)	介護現場をIT技術で効率化するための調査・開発研究会
10 月　5 日(月)	拡大する資本主義社会における人間性の存続可能性　公開講座
10 月 5 日(月)	男女共同参画の視点に立った国際都市新宿における地域防災会議
10 月　9 日(金)	第 2 回みらいエンパワメントカフェ
10 月 16 日(金)	大規模災害に備えた在宅療養者・家族のための地域対策セミナー
10 月 22 日(木)	アドバンスケアプランニングの議論からわが国の患者主体の医療を再考する研究会
10 月 23 日(金)	拡大する資本主義社会における人間性の存続可能性 公開講演会「経済活動と自粛のジレンマ」
10 月 27 日(火)	第 1 回常務理事会
12 月　2 日(水)	第 3 回みらいエンパワメントカフェ